

# 重要魚種の卵稚仔及びプランクトンの研究

(我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 受託 研究期間 平成8年度～)

担当：資源海洋科 鷲山裕史

## 【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁獲可能量(TAC)の決定など資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられ、重要魚種の資源評価のため各種データの収集・解析が実施されています。

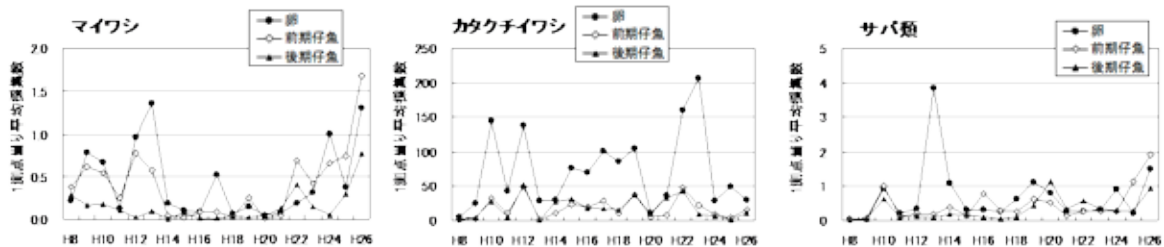
イワシ類、サバ類など重要魚種の卵稚仔についても、資源評価情報の一環として、出現状況の調査を行っています。この中で、静岡県周辺海域の卵稚仔・プランクトンの分布と出現状況を調べ、重要魚種との関連性を検討します。

## 【これまで得られた成果】

- ・ マイワシについて、平成26年の1～5月の1測点当たりの平均採集量は、卵、前期仔魚及び後期仔魚が過去10年で最大になりました。
- ・ カタクチイワシについて、平成26年の1～5月の1測点当たりの平均採集量は、卵、前期仔魚及び後期仔魚が過去10年の平均を下回りました。
- ・ サバ類について、平成26年の1～5月の1測点当たりの平均採集量は、卵及び前期仔魚が過去10年で最大になり、後期仔魚が過去10年平均を上回りました。



卵稚仔採集の様子



マイワシ、カタクチイワシ、サバ類の卵稚仔1測点当り平均採集数(1～5月)

## 【期待される成果】

- ・ 卵稚仔の出現状況について全国的に情報が集積されることで、資源評価の精度が高まり、より有効な資源評価を実施することができます。
- ・ 卵稚仔の出現状況から、資源加入の把握等を行い、漁況予測につなげます。

## 【今後の計画】

- ・ 重要魚種の卵稚仔分布と漁海況変動との関連について検討します。
- ・ 沿岸へ加入する重要魚種の稚魚採集を行い、漁海況との関連について検討します。

(作成 平成27年4月)